

《引用・参考文献》

会津坂下町教育委員会編・発行「阿賀川地区遺跡発掘調査報告書」1990年
会津坂下町教育委員会編・発行「坂下北部地区遺跡発掘調査報告書」1993年
会津坂下町教育委員会編・発行「亀ヶ森古墳」1993年
会津坂下町教育委員会編・発行「会津坂下町杵ガ森古墳・稲荷塚遺跡発掘調査報告書」1995年
会津坂下町教育委員会編・発行「鎮守森古墳」1998年
会津坂下町教育委員会編・発行「文化財シンポジウム 会津地方の古墳文化」2002年
会津坂下町教育委員会編・発行「亀ヶ森古墳Ⅱ」2009年
会津坂下町教育委員会編「森北古墳群」創価大学 1999年
会津坂下町史編さん委員会編「会津坂下町史」第4巻 会津坂下町 2017年
会津若松市教育委員会編・発行「会津若松市埋蔵文化財分布調査報告書」1999年
青山博樹「底部穿孔壺の思想」『日本考古学』第18号 2004年
いわき市教育文化事業団編「県指定史跡 玉山古墳」いわき市教育委員会 2009年
大塚初重「福島県深沢古墳の測量調査」『福島考古』第16号 1975年
金谷克己「武蔵児玉群美里村川輪発見の埴輪壺」『上代文化』第27輯 1957年
菊地芳朗・佐藤純平編「団子山古墳5 塚前古墳1」『福島大学行政政策学類』2018年
木本元治「会津若松市田村山古墳出土の鏡」『福島県立博物館紀要』第22号 2008年
木本元治「古墳時代の始まり」『塩川町史』第1巻 喜多方市 2013年
黒田篤史「山中日照田遺跡出土土師器の纏年の再検討」『福島考古』第44号 2003年
黒田篤史「東北部」東北・関東前方後円墳研究会編「東日本における古墳の出現」六一書房 2005年
郡山市教育委員会編・発行「郡山東部Ⅱ」1982年
郡山市文化・学び振興公社編「正直古墳群 第1次発掘調査報告」郡山市教育委員会 2018年
郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編「山中日照田遺跡 第2次調査報告」郡山市教育委員会 1999年
郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編「大安場古墳群 第6次発掘調査報告」郡山市教育委員会 2005年
近藤義郎編「前方後円墳集成 東北・関東編」山川出版社 1994年
近藤義郎編「前方後円墳集成 補遺編」山川出版社 2000年
田中幸悦・生江芳徳「会津坂下町宇内青津古墳群虚空蔵森前方後円墳の測量調査」『福島考古』第21号 1980年
辻秀人「天神免古墳群」『糠塚古墳群』『喜多方市史』第4巻 喜多方市 1995年
辻秀人「東北古墳研究の原点 会津大塚山古墳」新泉社 2006年
堂ヶ作山古墳調査団編「堂ヶ作山古墳Ⅱ」会津若松市教育委員会 1996年
東洋文化財研究所編「仲ノ平古墳群」須賀川市教育委員会 1987年
中川伝吾・中村五郎・大川原栄喜・穴沢啄光・小滝利恵「塩川十九壇古墳群調査報告」『福島考古』第14号 1973年
生江芳徳「会津坂下町の大型古墳」『福島考古』第17号 1976年
生江芳徳「会津坂下町宇内青津古墳群出崎山支群の測量調査」『福島考古』第18号 1977年
生江芳徳編「会津田村山古墳」田村山古墳周満調査報告書刊行会 1981年
原町市教育委員会編・発行「桜井上波佐支群7号墳発掘調査報告書」2001年
原町市教育委員会編・発行「国史跡桜井古墳 史跡整備事業に伴う発掘調査」2002年
藤澤敦「地域の展開 東北」古墳時代の考古学第2巻「古墳出現と展開の地域相」同成社 2012年
福島県立博物館編・発行「古墳測量調査報告」1987年
法政大学文学部考古学研究室編「本屋敷古墳群の研究」法政大学 1985年
柳沼賢治「郡山市大善寺地区出土の古墳時代前期土器」『福島考古』第29号 1988年
柳沼賢治「古墳時代前期の交流と地域間関係」『福島考古』第54号 2012年
柳沼賢治・押山雄三・仲田茂司「郡山市正直35号墳の測量調査」『福島考古』第32号 1991年
柳沼賢治・菅野和恵「須賀川市団子山古墳の埴輪」『福島考古』第53号 2011年

企画展記念講演会

講師：辻 秀人（東北学院大学文学部教授）
演題：大安場古墳と東北の古墳時代
日時：令和元年7月21日（日）
13:30～15:00

展示解説会

日時：令和元年7月28日（日）・8月18日（日）
13:30～14:00

例言

- 本書は、大安場史跡公園企画展「FUKUSHIMA前期古墳アラカルト」のパンフレットです。
会期：令和元年7月13日（土）～9月1日（日）
- 下記の機関・個人の協力をいただきました。
会津坂下町教育委員会／会津若松市北会津町田村山区／会津若松市教育委員会／大玉村教育委員会／喜多方市教育委員会／須賀川市立博物館／福島県教育委員会／福島県文化財センター白河館／福島県立博物館／南相馬市博物館／田村万／柳沼賢治／渡部豊治（順不同・敬称略）
- 企画展の実施と本書の作成は、垣内和孝が担当しました。

編集・発行 大安場史跡公園（公益財団法人 郡山市文化・学び振興公社）
〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地 TEL 024-965-1088

発行日 令和元年7月13日



大安場史跡公園 全面開園10周年記念企画展

FUKUSHIMA 前期古墳 アラカルト

福島県の前期古墳出土の鏡と埴輪が一堂に集合！

今年度は、大安場史跡公園が全面オープンして10周年の節目の年です。そこで今回の企画展では、公園内にある大安場古墳が築かれた古墳時代の前期を取り上げました。邪馬台国の女王卑弥呼が死去したとされる3世紀半ば頃に、古墳時代は始まります。それから4世紀末までの約150年間は、古墳時代の前期です。企画展では、この古墳時代前期に築造された古墳を、会津・中通り・浜通りの3地方ごとに紹介します。取り上げたのは主に、全長が30メートルを超える規模の有力古墳です。これらの有力古墳は、四角と丸をつなげた形の前方後円墳や、四角と四角をつなげた前方後方墳と呼ばれるものがほとんどです。葬られた人物は、古墳のある地域の有力者です。現在の奈良県にあたるヤマトを本拠として日本列島を代表した勢力と、政治的な関係を結んでいました。その関係の証として、前方後円墳や前方後方墳を築造したと考えられています。

クイズに答えて記念品をゲット！

FUKUSHIMA 前期古墳クイズ

答えが書けたら受付までお持ちください！

*記念品が無くなりしだい終了します。

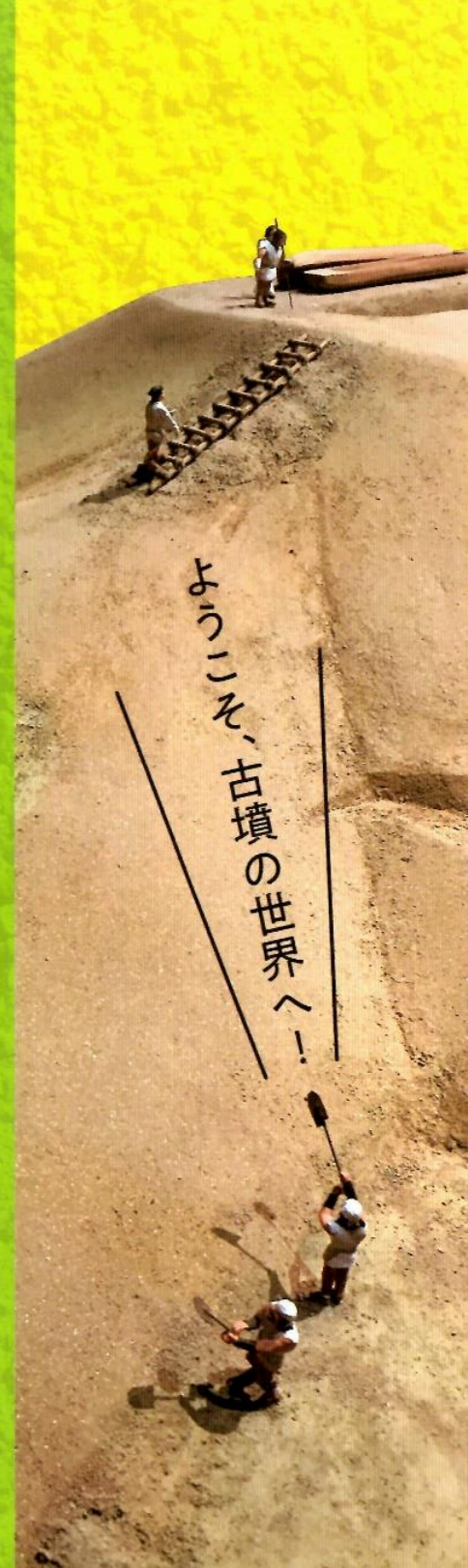
第1問 会津地方で最も規模が大きな古墳の名前は？

第2問 中通り地方で最も古い前方後円墳のある市町村は？

第3問 浜通り地方で最も規模が大きな古墳の形は？

第1問	
第2問	
第3問	

郡山市・郡山市教育委員会・大安場史跡公園（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）



福島県主要前期古墳くらべ

福島県でみつかった前期古墳を、大きさを基準に5段階に整理してみました。

全長が100mを超える最も規模の大きいクラスの前古墳は、会津地方の亀ヶ森古墳と会津大塚山古墳、浜通り地方の玉山古墳の3基です。全て前方後円墳です。中通り地方には、このクラスの古墳はありません。

100m未満で70m以上の規模の古墳は4基あり、1基が前方後円墳、3基が前方後方墳です。中通り地方で最も大

きい大安場古墳は、このクラスの前方後方墳です。70m未満で50m以上、50m未満で30m以上の古墳は、前方後円墳と前方後方墳が混在し、規模が小さくなるに従い数が多くなります。

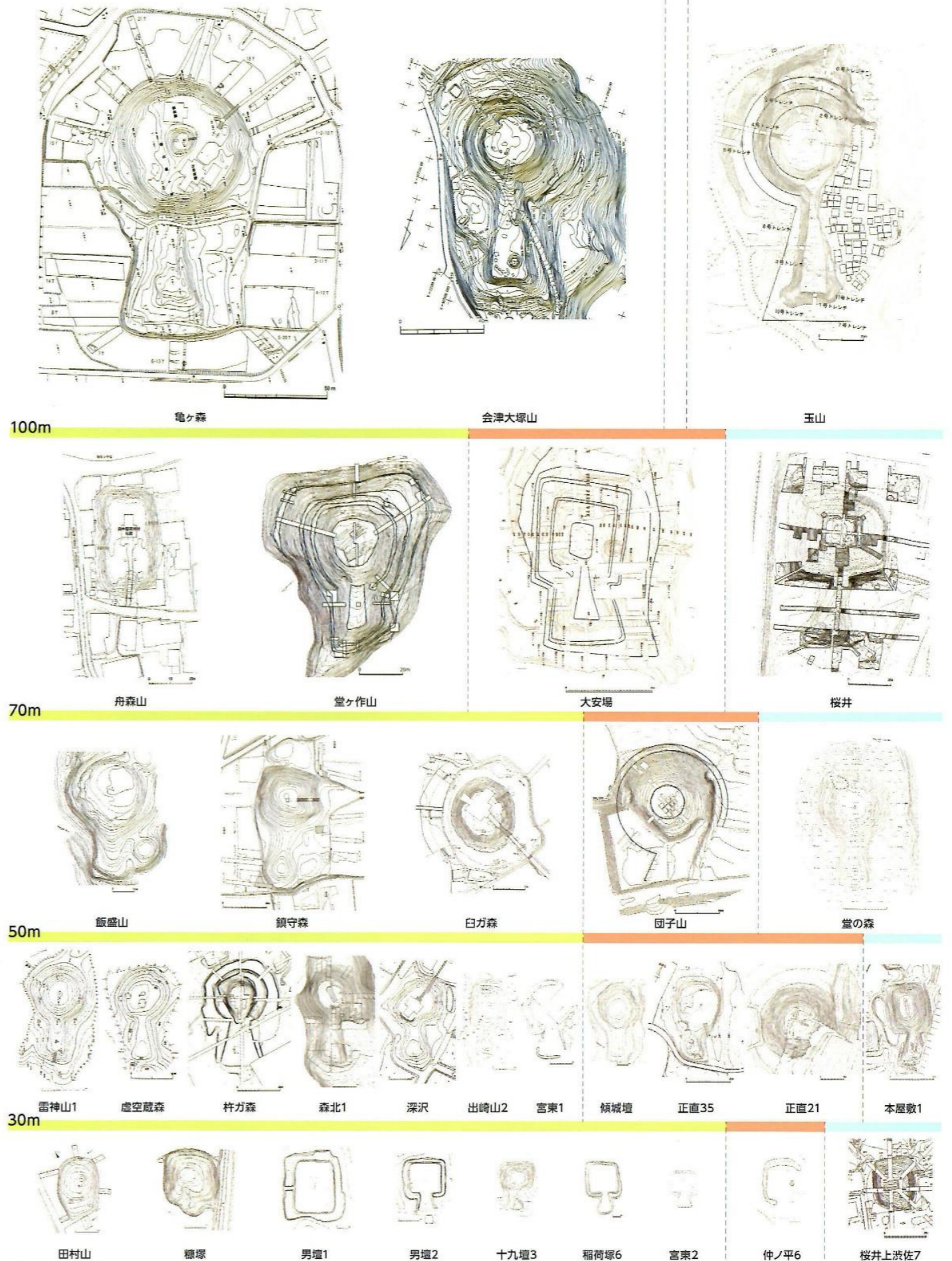
最も規模の小さい30m未満の古墳は、小規模な周溝墓を除くと、前方後方墳と方墳が多くをしめます。会津の田村山古墳は前方後円墳とされることが多いのですが、墳丘が大きく改変されているため、確かな形はわかりません。



	会津					中通り			浜通り			
	若松西部	若松東部	会津坂下	喜多方西部	喜多方北部	喜多方東部	大玉	郡山東部	須賀川東部	南相馬	浪江	いわき
前半	田村山	飯盛山	宮東2 宮東1	男壇2 男壇1	舟森山	傾城壇			仲ノ平6		本屋敷1	
後半	会津大塚山	堂ヶ作山	稲荷塚6	森北1	深沢				桜井上洪佐7		堂の森	玉山

福島県の主要前期古墳の位置と編年

●会津 ●中通り ●浜通り



福島県の主要前期古墳測量図(各古墳測量図は引用・参考文献より転載)

福島県の主要前期古墳一覧

地域	古墳名	墳形	全長(m)	段築	葺石	埴輪	壺	
		主体部		主な副葬品				
若松東部	飯盛山古墳	前方後円	65					
	堂ヶ作山古墳	前方後円	84	前2:後3	○		○	
	会津大塚山古墳	前方後円	114	前2:後2~3				
南:割竹形木棺				三角縁神獸鏡・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・銅鏃・農工具・玉類				
	北:割竹形木棺			銅鏡・鉄刀・鉄鏃・銅鏃・農工具・管玉・紡錘車				
若松西部	田村山古墳	前方後円?	26					
		礫柳・木棺		内行花文鏡・鉄刀・鉄剣				
会津坂下	稻荷塚6号周溝墓	前方後方	24				○	
	杵ガ森古墳	前方後円	45	後2			○	
	臼ガ森古墳	前方後円	50					
	森北1号墳	前方後方	41					○
		舟形木棺			珠文鏡・鉄槍・鉈・針・管玉・漆製品			
	出崎山2号墳	前方後方	33					
	雷神山1号墳	前方後円	47					
	宮東2号周溝墓	前方後方	14					
	宮東1号周溝墓	前方後円	31				○	
	男壇2号周溝墓	前方後方	24					
	男壇1号周溝墓	方	23				○	
	鎮守森古墳	前方後方	55	後3			○	
	亀ヶ森古墳	前方後円	127	後3		○	○	
喜多方西部	天神免古墳	前方後方?	35					
	虚空蔵森古墳	前方後円	46					
喜多方北部	糠塚古墳	方	26					
喜多方東部	舟森山古墳	前方後方?	90?			○	○	
		粘土柳						
	深沢古墳	前方後方?	41					
	十九塚3号墳	前方後方	24					
観音森古墳	前方後方?	70?						
中通り	大玉	傾城壇古墳	前方後円	42			○	
		正直35号墳	前方後方	37				
		正直21号墳	円	34				○
	郡山東部	大安場古墳	前方後方	84	前2:後3			○
			粘土床・割竹形木棺		腕輪形石製品・鉄刀・鉄剣・鉄槍・農工具			
須賀川東部	仲ノ平6号墳	前方後方	24					
	団子山古墳	前方後円	65			○	○	
浜通り	南相馬	桜井上渋佐7号墳	方	27			○	
			組合式木棺		珠文鏡・農工具			
	桜井古墳	前方後方	75	後3			○	
	浪江	本屋敷1号墳	前方後方	36				○
割竹形木棺				櫛・管玉・ガラス小玉				
いわき	玉山古墳	前方後円	112	後3		○	○	

会津地方の前期古墳

福島県で前期古墳が最も多いのは会津地方です。分布には偏りがあり、会津若松市東部・会津坂下町・喜多方市西部・同東部に集まります。これらの地域のうち、会津大塚山古墳を含む会津若松市東部は前方後円墳、舟森山古墳を含む喜多方市東部は前方後方墳で構成されます。

一方で、喜多方市西部や会津坂下町は前方後円墳と前方後方墳が混在します。両地域の前期古墳の位置を細かくみても、5つの地区に分かれそうです。ほとんどの場合、それぞれの地区で形が前方後方から前方後円に変化します。天神免古墳(前方後方)→虚空蔵森古墳(前方後円)、稻荷塚6号周溝墓(前方後方)→杵ガ森古墳(前方後円)→臼ガ森古墳(同)、森北1号墳(前方後方)→出崎山2号墳(同)→雷神山1号墳(前方後円)、宮東2号周溝墓(前方後方)→宮東1号周溝墓(前方後円)という具合です。鎮守森古墳(前方後方)と亀ヶ森古墳(前方後円)は、築造年代が近く判断が難しいとされています。



喜多方市西部と会津坂下町の主要前期古墳の分布 (地図は国土地理院発行2万5千分の1地形図「喜多方西部」[坂下])

中通り地方の前期古墳

中通り地方では、中部にのみ前期の有力古墳が存在し、前方後円墳と前方後方墳が混在します。ただし1地域には集中せず、大玉村・郡山市東部・須賀川市東部にわかれています。大玉村の傾城壇古墳と須賀川市東部の団子山古墳が前方後円墳であるほかは前方後方墳です。

郡山市東部では、正直35号墳(前方後方)→大安場古墳(同)→正直21号墳(円墳)と変化します。しかし、郡山市東部の地形を細かくみても、大安場古墳と正直古墳群との間には谷田川が流れ、それぞれの場所を併せて同一地域と評価してよいか検討が必要です。別地域とすれば、大安場古墳は単独の存在となり、正直古墳群を構成する有力古墳が、35号墳→21号墳という具合に方形基調から円形基調に変化した、と評価できそうです。正直21号墳が前方後円墳ではなく大型の円墳であることに、この地域の特徴があります。

浜通り地方の前期古墳

浜通り地方の前期古墳は、大きく3つの地域にわかれています。北から順にあげると、南相馬市・浪江町・いわき市です。南相馬市の桜井古墳と浪江町の本屋敷1号墳は前方後方墳、同じく堂の森古墳といわき市の玉山古墳は前方後円墳です。

浪江町の2つの古墳は、本屋敷1号墳→堂の森古墳という順番で築造されたと考えられます。浪江町の有力古墳にみられる前方後方墳から前方後円墳へという変化は、会津

地方における喜多方市西部や会津坂下町と同様です。いわき市の玉山古墳では、周辺に前期の有力古墳はありません。南相馬市の桜井古墳は、桜井古墳群上渋佐支群7号墳が隣接するものの、前方後円墳や前方後方墳ではなく方墳で、規模は小さく30m未満です。玉山古墳と桜井古墳は、中通り地方の大安場古墳や団子山古墳などと同じく、単独で存在した有力古墳と評価できそうです。

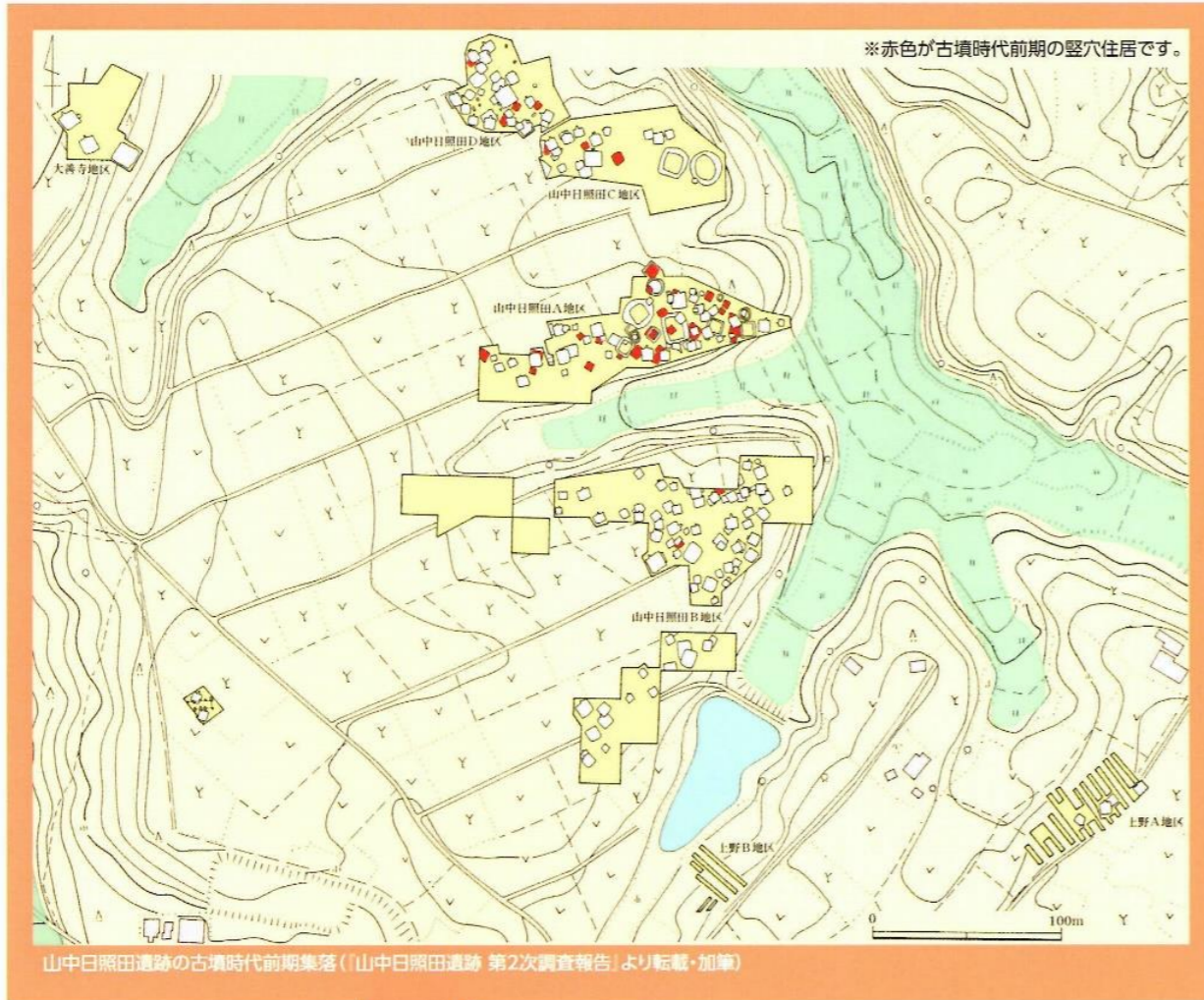
大安場古墳を支えた集落

谷田川の支流である前川をはさんで、大安場古墳南側の丘陵上に山中日照田遺跡があります。同遺跡でみつかった古墳時代の集落は、福島県内でも有数の規模です。継続した期間も長く、古墳時代の全時期にわたります。

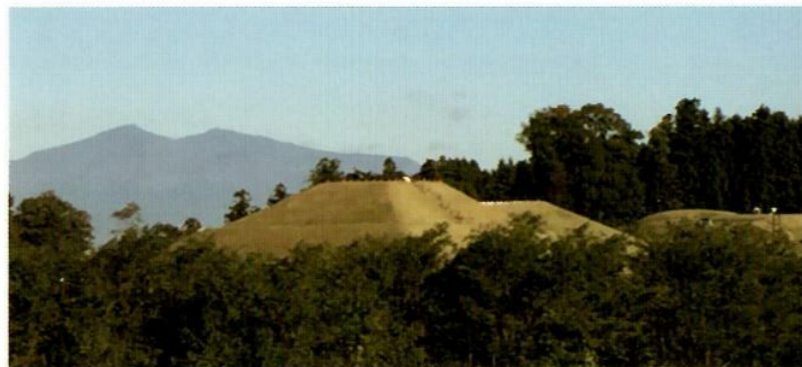
そのうちの前期では、竪穴住居が40棟ほどみついています。発掘調査の範囲に限られるため全体像は不明ですが、これほどの規模の前期の集落は郡山市内では他にありません。同じ前期に築造された大安場古墳とこの集落

が、無関係であったとは考え難いでしょう。

大安場古墳からは山中日照田遺跡の集落を見下ろせ、集落からは古墳を仰ぎ見ることができます。大安場古墳に葬られた人物の居館(屋敷)は未確認です。しかし、発掘調査されていない同遺跡の一面に埋もれているかもしれません。少なくとも、山中日照田遺跡の集落に住んだ人々が、大安場古墳の主を支えていたことは確かでしょう。



郡山市東部の主要前期古墳の分布 (地図は国土地理院発行2万5千分の1地形図「郡山」)



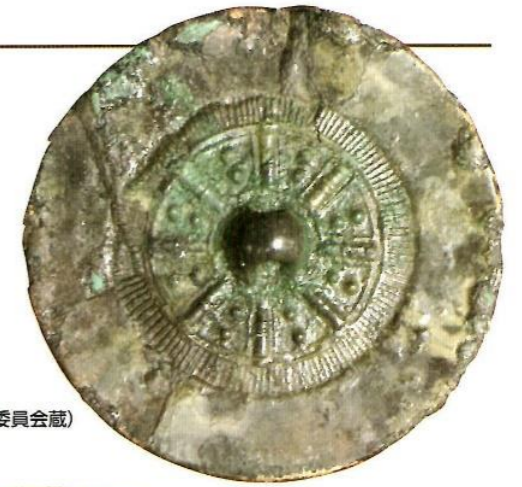
山中日照田遺跡から見た大安場古墳

鏡

福島県の前期古墳から出土した鏡は、会津若松市の会津大塚山古墳の3面、同じく田村山古墳の2面、会津坂下町の森北1号墳の1面、南相馬市の桜井古墳群上渋佐支群7号墳の1面です。

これらのうち、会津大塚山古墳出土鏡以外の鏡を展示しました。田村山古墳の内行花文鏡2面のうちの1面は、故意に壊された破鏡です。割れ口を観察すると、研磨されていることがわかります。森北1号墳と桜井古墳群上渋佐支群7号墳の鏡は、いずれも珠文鏡ですが文様は異なります。

後者の珠文鏡は、布に包まれた状態で出土し、周囲の状況から木箱に入れられていたようです。とても大切にされていたことがわかります。実物を展示できなかった会津大塚山古墳では、三角縁神獣鏡の復元鏡を展示しました。出土した鏡の多くは錆びて緑色になっていますが、この復元鏡では、往時のピカピカとした輝きが実感できます。



珠文鏡 (森北1号墳出土 会津坂下町教育委員会蔵)



三角縁神獣鏡 (会津大塚山古墳出土 会津若松市教育委員会蔵・福島県立博物館写真提供)

錆びる前はピカピカの黄金色...!?



内行花文鏡(田村山古墳出土 会津若松市田村山区蔵 福島県立博物館寄託)



X線で中を見ると...?

珠文鏡(桜井上渋佐7号墳出土 南相馬市教育委員会蔵・写真提供)

埴輪



亀ヶ森古墳出土円筒埴輪 (会津坂下町教育委員会蔵)

福島県の前期古墳のうち、埴輪が出土しているのは、会津坂下町の亀ヶ森古墳、喜多方市の舟森山古墳、須賀川市の団子山古墳です。この3古墳の埴輪を展示しました。

亀ヶ森古墳の円筒埴輪と朝顔形円筒埴輪は、いずれも破片の状態です。全体の形は復元できませんが、福島県で最大規模の古墳を飾った埴輪であり、貴重な存在です。



舟森山古墳と団子山古墳の埴輪も破片の状態ですが、全体の形が推定復元されています。舟森山古墳の円筒埴輪は特異な形です。通常の円筒埴輪には、突帯と呼ばれる横方向のどっぴりが器面に付いています。ところが舟森山古墳の円筒埴輪には、突帯が付いていないようなのです。

前期の古墳のうち、埴輪の存在が確認されているのは、今のところこの3古墳のみです。その意味するところが気になるところです。



舟森山古墳出土円筒埴輪 (喜多方市教育委員会蔵 復元図は『塩川町史』第1巻より転載)



団子山古墳採集円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪 (須賀川市立博物館蔵 復元図は柳沼賢治氏作成)

土器

前期古墳では、埴輪ではなく壺形の土器を並べることがありました。この壺形土器は、底に孔が開いているのが特徴です。容器としての役割を期待されない、古墳に並べるための壺です。

会津坂下町の稲荷塚遺跡6号周溝墓、大玉村の傾城壇古墳、郡山市の正直21号墳、南相馬市の桜井古墳の壺形土器を展示しました。稲荷塚遺跡6号周溝墓の壺形土器の1つは、口縁部の外面に放射状の彩色が施されています。他の壺形土器に同様の彩色はみられないので、特別な壺だったと予想できます。



稲荷塚6号周溝墓出土底部穿孔壺 (会津坂下町教育委員会蔵)

壺の底に孔を開ける方法は、時期によって違うようです。最も古い時期では、完成した壺の底を壊して孔を開けたようです。次の時期では、軟らかい粘土の状態のときに孔を開けたようです。最後の時期は、最初から孔を開けた状態で、壺を作り始めたようです。孔の開け方が、だんだんと省力化しているのです。



桜井古墳出土底部穿孔壺 (南相馬市博物館蔵)



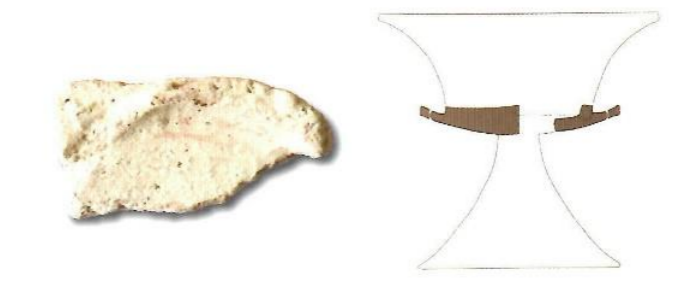
正直21号墳出土底部穿孔壺 (郡山市教育委員会蔵)

《参考図》



傾城壇古墳採集器台 (大玉村教育委員会蔵)

傾城壇古墳採集底部穿孔壺 (大玉村教育委員会蔵 復元図は柳沼賢治氏作成)



傾城壇古墳採集装飾器台 (大玉村教育委員会蔵 復元図は柳沼賢治氏作成)

「大安場古墳誕生物語」



それから1600年後——



※大安場古墳の被葬者については、男性1人説・女性1人説・男女2人説などがありますが、このマンガでは展示と同じ1人説で描いています。

イラスト：平林佑樹

大安場古墳と大安場史跡公園の歩み

平成3年	安瀬美兼氏の案内で大安場古墳を確認。
平成7年	測量調査を実施。
平成8年	第1次発掘調査を実施。以後、平成16年の第6次調査まで継続。
平成12年	9月6日に大安場古墳が国史跡に指定。
平成17年	史跡公園の整備工事開始。
平成20年	史跡公園の整備工事終了。

平成21年	4月4日に大安場史跡公園が全面オープン。
平成23年	3月11日の東日本大震災で被災。以後、公園の一部を閉鎖。
平成25年	復旧工事を経て、8月24日に全面再オープン。
平成29年	公園内に「子どもの遊び場」がオープン。
平成30年	ガイダンス施設入館者が50万人を達成。
平成31年	大安場史跡公園全面オープン10周年。

過去の企画展

平成21年度から25年度までは年に1回、平成26年度から30年度までは年に2回の企画展を実施し、古墳時代や郡山の歴史について紹介してきました。



過去の講演会 (平成21・22年度は「歴史講演会」、平成23年度以降は上段「歴史講演会」、下段「企画展記念講演会」。講師職名は当時。)

- 平成21年度 大塚初重(明治大学名誉教授)「東北地方における前方後方墳の世紀」
- 平成22年度 甘粕健(新潟大学名誉教授)「前方後円墳と前方後方墳—古墳の形から地域社会をみる—」
- 平成23年度 赤塚次郎(愛知県埋蔵文化財センター副所長)「前方後方墳に葬られた人びと」
- 赤川一郎(福島県考古学会副会長)「福島県の古墳の調査」
- 平成24年度 藤澤敦(東北大学総合学術博物館教授)「孤高の大型前方後方墳—大安場古墳から考える郡山の古墳時代—」
- 馬場悠男(元国立科学博物館人類研究部長)「語りだした古墳の主—正直27号墳出土土人骨の復顔によせて—」
- 平成25年度 伊藤玄三(法政大学名誉教授)「大安場古墳と東北の古墳文化」
- 菊地芳朗(福島大学教授)「古墳時代のくらし」
- 平成26年度 石野博信(兵庫県立考古博物館長)「大安場古墳が造られた時代—古墳時代前期の東北地方と畿内—」
- 日高慎(東京学芸大学准教授)「東と西の人物埴輪—福島県の埴輪をもとにして—」
- 平成27年度 土生田純之(専修大学教授)「始祖墓と大安場古墳」
- 渡辺誠(名古屋大学名誉教授)「縄文時代の謎を解く」
- 平成28年度 白石太一郎(大阪府立近つ飛鳥博物館長)「考古学からみたヒメ・ヒコ制(聖俗二重首長制)をめぐる」
- 七海雅人(東北学院大学教授)「東北の南北朝動乱—福島県・宮城県における動向を中心に—」
- 平成29年度 右島和夫(群馬県立歴史博物館長)「古墳時代の関東と東北部—群馬と福島の関係の深さを探る—」
- 北條芳隆(東海大学教授)「大和王権と埴輪—大安場古墳出土石釧の背景を探る—」
- 平成30年度 松木武彦(国立歴史民俗博物館教授)「大安場古墳群と4世紀のヤマト王権」
- 森公章(東洋大学教授)「倭の五王の時代」